

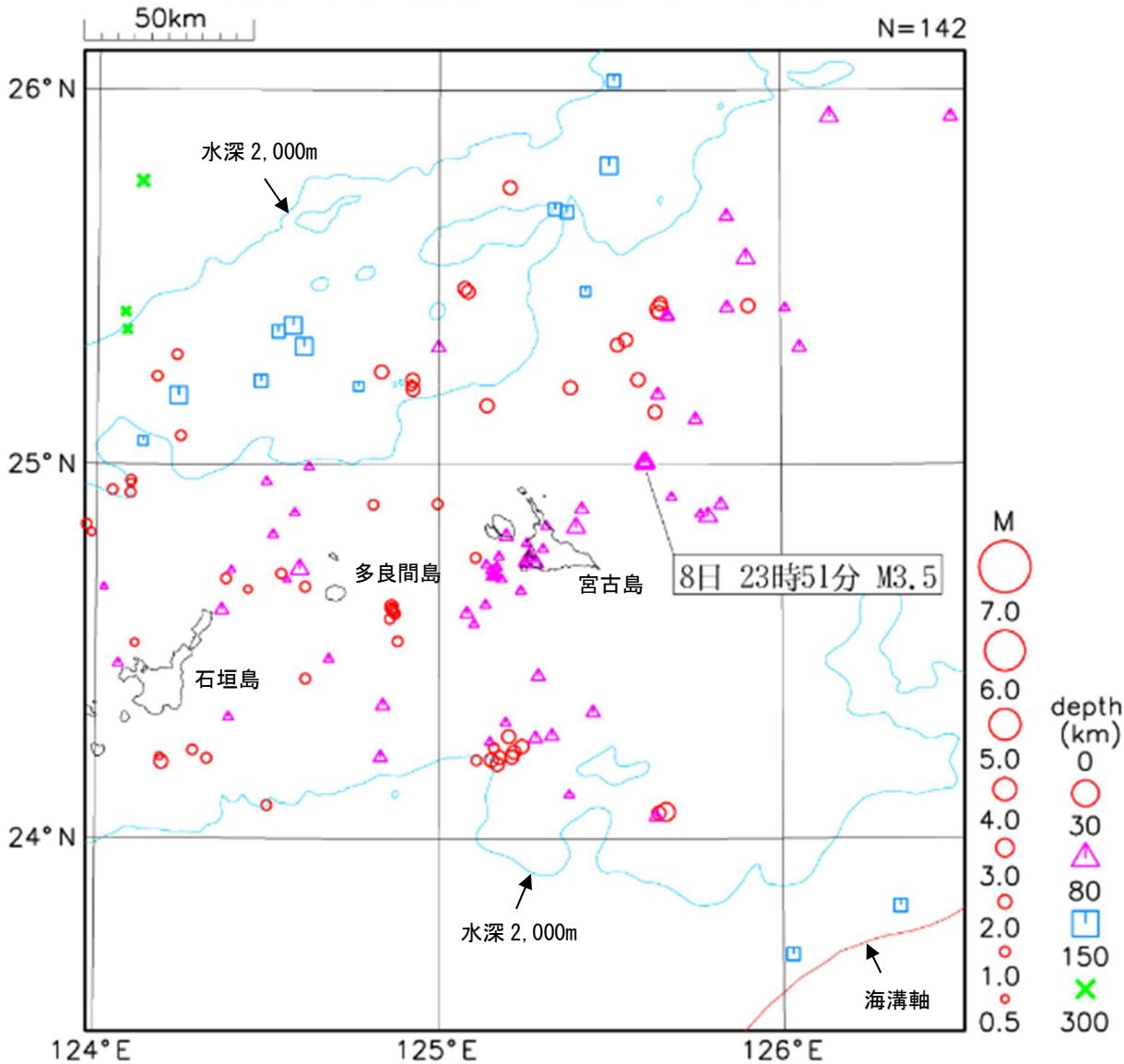
宮古島地方の地震活動図

令和7年（2025年）12月

宮古島地方気象台

震央分布図

2025 12 01 00:00 -- 2025 12 31 24:00



図中の記号 M : マグニチュード depth : 震源の深さ

N : 地震の回数 (マグニチュード0.5以上の回数です)

宮古島地方で震度1以上の地震を観測した場合は、吹き出しで示しています。

水深2000mの海底等深線は海上保安庁による。

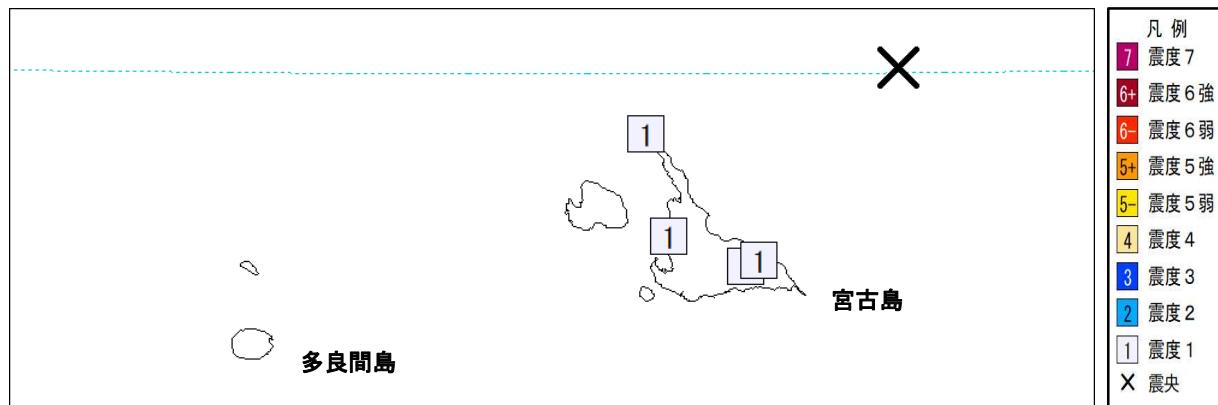
【概況】

今期間（12月）、宮古島地方で震度1以上を観測した地震は2回（11月は1回）でした。

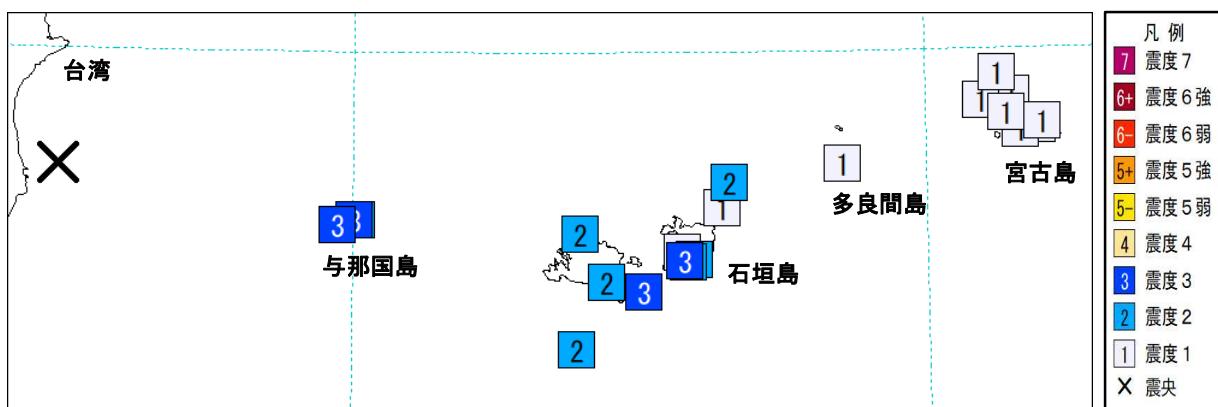
8日23時51分に宮古島近海で発生した地震（M3.5、深さ54km）により、宮古島市で震度1を観測しました。

28日00時05分に台湾付近で発生した地震（M7.0、深さ86km）により宮古島市や多良間村で震度1を観測したほか、宮古島から与那国島にかけて震度3～1（別紙参照）を観測しました。（震央分布図範囲外）

【震度分布図】



8日23時51分 宮古島近海 M3.5、深さ54km



28日00時05分 台湾付近 M7.0、深さ86km

宮古島地方で震度1以上を観測した地震の表

震源時 各地の震度	震央地名	緯度	経度	深さ	規模
2025年12月08日23時51分 沖縄県 震度 1	宮古島市平良下里, 宮古島市城辺福北, 宮古島市平良池間, 宮古島市城辺福西*	25° 00.3' N	125° 36.0' E	54km	M3.5
2025年12月28日00時05分 沖縄県 震度 1	多良間村塩川, 宮古島市平良下里, 宮古島市城辺福北, 宮古島市平良池間 宮古島市上野新里, 宮古島市伊良部前里添, 宮古島市平良狩俣*, 宮古島市城辺福西*	24° 37.9' N	121° 58.2' E	86km	M7.0

*の付いた地点は気象庁以外の震度観測点です。

*宮古島地方の震度観測点のみ記載しています。

※ 資料中のデータについて

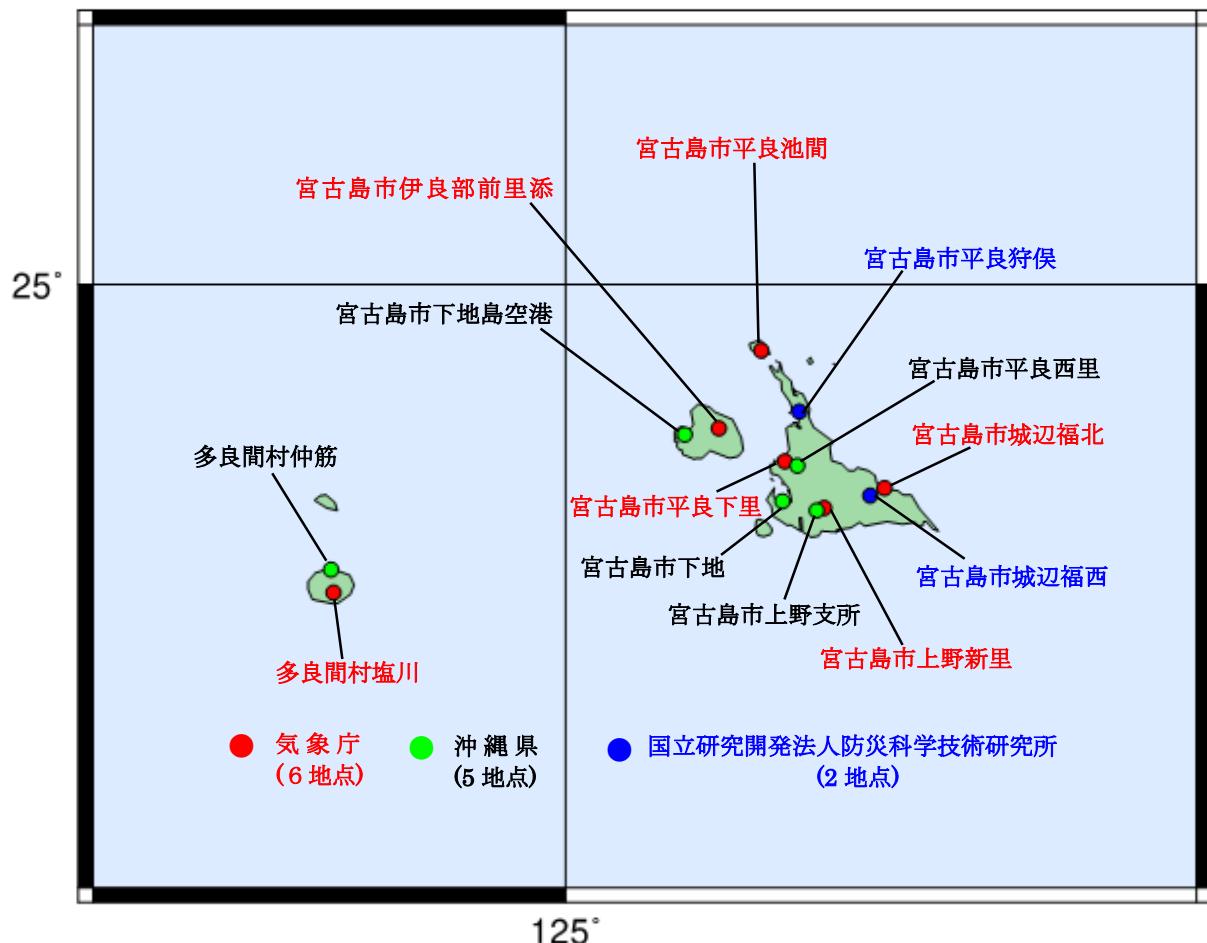
国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※ 概況中の震源の深さについて

震源の深さは、精度がやや劣るものは表記しないことがあります。

※ データについては精査により、後日修正することがあります。

宮古島地方の震度観測地点



- 宮古島地方の地震活動図
URL <https://www.data.jma.go.jp/miyako/topix/earthquake.html>
過去の地震活動は宮古島地方気象台のホームページで閲覧できます。
本件に関する問合せ先 宮古島地方気象台 電話 0980-72-3054
 - 防災一口メモ
URL <https://www.data.jma.go.jp/miyako/topix/memo.html>
季節ごとに注意すべき自然現象や、防災情報の利活用方法について解説しています。
 - 震度 1 以上を観測した地震の震度分布図は、気象庁ホームページ「震度データベース検索」をご覧ください。
URL <https://www.data.jma.go.jp/eadb/data/shindo/index.html>

上記各種 QR コード (地震活動図)



(防災一口メモ)



(雪度分布図)



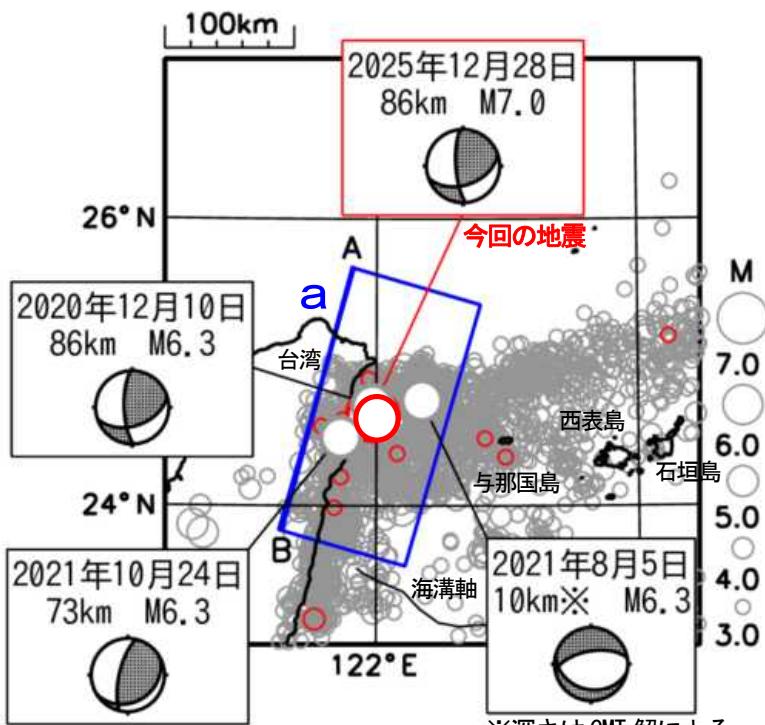
宮古島ご当地はれるん



12月28日 台湾付近の地震

震央分布図

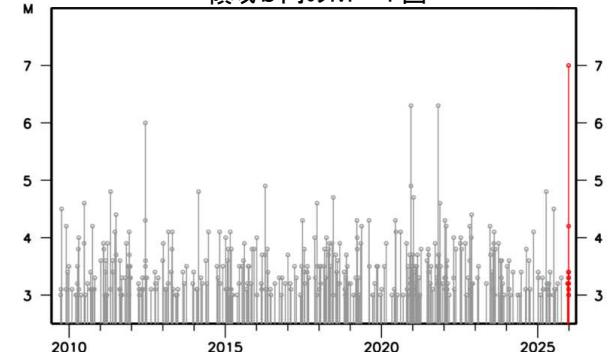
(2009年9月1日～2025年12月31日、
深さ40～150km、 $M \geq 3.0$)
2025年12月の地震を赤く表示
図中の発震機構はCMT解



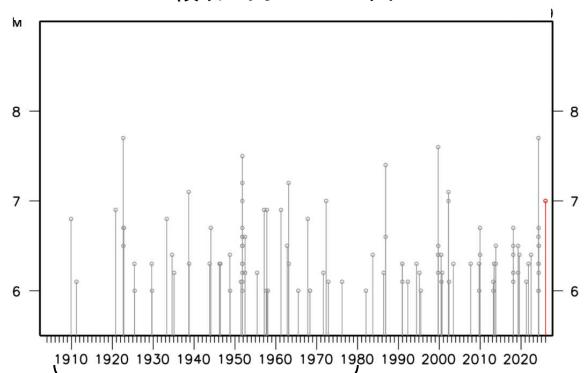
2025年12月28日00時05分に台湾付近の深さ86kmでM7.0の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）が発生した。この地震はフィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）は、西北西～東南東方向に圧力軸を持つ型であった。

2009年9月以降の活動をみると、この地震の震源付近（領域b）では、2020年12月10日にM6.3の地震（日本国内で最大震度2）が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。

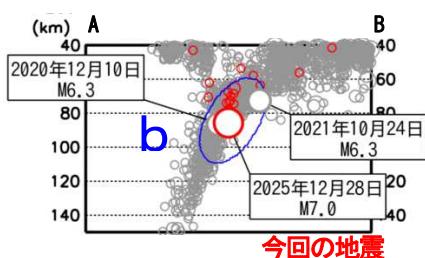
領域b内のM-T図



領域c内のM-T図



領域a内の断面図 (A-B投影)



震央分布図

(1904年1月1日～2025年12月31日、
深さ0～100km、 $M \geq 6.0$)

2025年12月以降の地震を赤く表示



2020年までの震源要素はISC-GEM、2021年以降の地震の震源要素は気象庁による。

1904年以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、過去にM7.0以上の地震が時々発生している。1986年11月15日にM7.4の地震（日本国内で観測された最大の揺れは震度3）により、宮古島平良で30cm（平常潮位からの最大の高さ）の津波を観測し、台湾では死者13人、負傷者45人などの被害があった（被害は、宇津の「世界の被害地震の表」による）。